

令和3年松本市議会9月定例会
市長閉会あいさつ

[3.9.27(月) PM1:30]

閉会に当たり、発言の機会をいただきましたので、一言ごあいさつを申し上げます。

議員の皆様には、22日間に及ぶ会期中、熱心にご審議を賜り、それぞれの議案を原案通り決定いただいたことに、厚く御礼を申し上げます。

この議会でいただいた意見や提言につきましては、今後、精査・研究を行い、事業化の可能性を検討してまいります。

新型コロナウイルスの第5波が、ようやく収束し、7月中旬から東京を中心に発生していた緊急事態宣言も、今月末で解除される方向となっています。

松本圏域では、医療機関相互の役割とネットワークを明確にした上で、新規陽性者に対して抗体カクテル療法を積極的に活用し、感染が一定程度広がっても重症化を防ぎ、入院や療養を短期間に抑える体制の確立に努めてきました。

これからの2か月は、余裕のある療養体制の下で、現役世代や若い世代に対するワクチン接種を加速し、11月20日をメドに市民の80%程度が2回の接種を完了できるよう、医療機関と連携して対応してまいります。

同時に、補正予算で認めていただいた3つの経済支援事業などを通じて、感染の長期化で厳しい経営状況が続いている事業者の皆さんや地域経済を下支えする取組みに力を入れてまいります。

新型コロナについては、なお何度か感染の波を繰り返し、一人ひとりが感染防止措置を続けていく必要がありますが、一定の感染者が出て社会や経済を回していける、文字通り「コロナと共存する環境」を、市民の皆さんと共につくってまいります。

去年3月に白紙撤回された、市立病院の移転先について、波田駅前の波田中央運動広場に選定することを、先週の市立病院建設特別委員会です承していただきました。

選定に当たっては、この周辺が旧波田町時代から歴史的・文化的な中心地であること、同時に西部地域における公共交通の結節点であること、そして早期の建設が見込めること、といった観点を総合して判断いたしました。

今後は、用地の一部に隣接する土砂災害特別警戒区域に適切な安全対策を実施するなど、安全性に十分配慮した設計を行った上で、建設工事に取りかかり、5年後の令和8年度中の開設を目指してまいります。

合わせて、市立病院の移転を契機に、交通・商業・医療・行政・教育といった都市機能を一体的に結びつけ、波田駅前を中心とするエリアが、大勢の人で賑わう西部地域の生活拠点となるように準備を進めてまいります。

衆議院議員の任期満了が迫り、菅総理大臣の退陣と自民党新総裁の選出を受けて、11月前半に衆議院総選挙が行われる見通しです。

松本市では、この選挙から、若者の投票率向上と過疎地域の有権者対応を目的に、タウンスニーカーで高校や山間部を巡回する「移動期日前投票所」を開設します。コロナ対策

で政治の役割が問われている今こそ、幅広い世代が選挙に目を凝らし、政権の選択につなげてもらいたいと思います。

同じ時期に、長野県議会議員選挙「松本市・東筑摩郡区」の補欠選挙が行われます。松本市議会からも、県議選に挑戦する動きがあると報道されています。市政で培った政治経験を生かして県政に新風を吹き込み、松本市民の課題の解決に力を発揮してもらえることを期待します。

日本は、大きな転換期を迎えています。デジタル化とゼロカーボンという新しい世界基準が、経済や社会の仕組みを根底から変えようとしています。コロナショックを乗り越え、変革を大胆に推し進め、松本の「シンカ」にチャレンジしていきます。

議員の皆様には、時節柄、健康にくれぐれもご留意をいただき、引き続き松本市の発展にご協力を賜りますようお願い申しあげ、9月定例閉会のあいさつといたします。

(以上)